

3. 2017 年度活動概要

今年度も、昨年度に続き最新の理論を反映しつつ進めてきた「スキル統合型テスト」の作成及び評価方法についての研究を、様々な状況における実践に結びつけることを目指して行った。主たるテーマ、及び活動は以下のとおりである。加えて、国際共通語としての英語（EIL, ELF）という視点を取り入れた言語評価についても研究を開始した。

1) 「日本の英語教育のための Assessment literacy の一覧表の精緻化」

これまで行ってきた Assessment Literacy の理論的・実践的検証結果をもとに、問題点を整理しつつ、引き続き一覧表の更なる精緻化を目標に実践的研究を積み重ねた。

2) 「スキル統合的テストの開発」

2016 年度に引き続き、スキル統合的能力テスト（特にスピーキングおよびライティングテストをアウトプットとするもの）に必要な評価項目、基準（ルーブリック）、テスト方法などの開発・検証を、様々な状況や文脈を考慮しながら進めた。

2. 活動内容

(1) 上記目標に沿って下記の言語テスト、アセスメントに関する書籍の読書会を行い、各章 について、毎月の例会で担当の委員が発表し、ディスカッションを行った。2 冊目の図書は EIL/ELF に関連するものである。

Read, J. (2015). *Assessing English proficiency for university study*. New York: Palgrave Macmillan.

McKay, S.L. & Brown, J.D. (Eds.) (2016) *Teaching and Assessing EIL in Local Contexts around the World*. Routledge: New York, USA.

(2) 評価に関するワークショップを開催し理論と実践の融合を図った。

学部及び大学院で英語科教育法を受講している学生を主たる対象として、9 月 7 日に第 10 回夏期ワークショップを実施した。現行学習指導要領の目標の一つである「スキル統合的指導と評価」をテーマに掲げ、アセスメントの基本的な理論、構成概念、評価法、項目分析に関する講義に加え、モデル授業、参加者によるテスト作成とその批評活動及び評価結果の分析を行った。

(3) 学会発表において研究成果を共有し、分析・議論を深めた。

読書会から得た知見に加えて、国内外のスキル統合型テストの評価方法の分析、毎年開催している上記ワークショップのアンケート分析結果、実際のテスト結果の分析などを基に、スキル統合型テスト作成のための Can-do チェックリストの精緻化、評価基準の妥当性、学習者が用いるストラテジーなどについて学会発表を行った。実践への適用においては、各教員が日々の授業の中でスキル統合型テストを作成できるように、テスト理論の考え方を反映させたテスト作成モデルを構築し、学会発表や夏期ワークショップを通じて参加者と共有した。発表を行った学会は以下のとおりである。KATE（関東甲信越英語教育学会）年次大会、PAAL 国際大会、JASELE（全国英語教育学会）年次大会、JACET 国際大会及び、JALT 国際大会。

特に JACET 国際大会において行った SIG ポスター・セッションは、90 年代からのテスト研究会の活動の足跡を多くの会員、参加者に知っていただく貴重な機会となった。

3. 今後の活動予定

1) 「日本の英語教育のための Assessment literacy の一覧表の様々な実践に基づく精緻

化及び最適化」

これまで理論的・実践的検証をもとに作成を進めてきた Assessment Literacy の一覧表 (Can-Do リスト) について、2018 年度はより具体的な状況に即した実践研究を通じて問題点を整理・解決しつつ、更なる精緻化及び最適化を目指す。

2) 「スキル統合的テスト方法の開発・検証」

2017 年度に引き続き、スキル統合的能力テスト (特にスピーキングおよびライティングをアウトプットとするもの) の評価項目や基準 (ルーブリック)、様々な目的や状況に応じたテスト方法の開発・検証を行う。特に昨年から開始したストラテジーや言語能力と認知能力との関連性などの学習者要因の研究を反映させて、より総合的で実践的な検証をする。

3) 昨年に引き続き 9 月に夏期ワークショップを開催する予定である。

4) テスト研究会の年次活動報告書と Monograph No.3 を刊行予定である。